

章末問題A

1

- 【解答】 (1) x^4-16 (2) $1-a^9$ (3) $a^6-3a^4b^2+3a^2b^4-b^6$
 (4) $a^8-2a^4b^4+b^8$ (5) x^6-1

【解説】

- (1) $(x+2)(x-2)(x^2+4)=(x+2)(x-2)\times(x^2+4)$
 $= (x^2-4)(x^2+4) = x^4-16$
 (2) $(1-a)(1+a+a^2)(1+a^3+a^6) = (1-a^3)(1+a^3+(a^3)^2) = 1-(a^3)^3$
 $= 1-a^9$
 (3) $(a+b)^3(a-b)^3 = \{(a+b)(a-b)\}^3 = (a^2-b^2)^3$
 $= (a^2)^3 - 3(a^2)^2b^2 + 3a^2(b^2)^2 - (b^2)^3$
 $= a^6 - 3a^4b^2 + 3a^2b^4 - b^6$
 (4) $(a+b)^2(a-b)^2(a^2+b^2)^2 = \{(a+b)(a-b)(a^2+b^2)\}^2$
 $= \{(a^2-b^2)(a^2+b^2)\}^2$
 $= (a^4-b^4)^2 = a^8 - 2a^4b^4 + b^8$
 (5) $(x+1)(x-1)(x^2+x+1)(x^2-x+1) = (x+1)(x^2-x+1)\times(x-1)(x^2+x+1)$
 $= (x^3+1)(x^3-1) = x^6-1$

2

- 【解答】 (1) $(x+y+1)(x+y-2)$ (2) $(3x-2y-4)(4x+3y-5)$
 (3) $(x+y)(x-y)(x^2-xy+y^2)(x^2+xy+y^2)$

【解説】

- (1) 与式 $= (x+y)^2 - (x+y) - 6 + 4 = (x+y)^2 - (x+y) - 2$
 $= (x+y+1)(x+y-2)$
 (2) 与式 $= 12x^2 + (y-31)x - 2(3y^2+y-10)$
 $= 12x^2 + (y-31)x - 2(y+2)(3y-5)$
 $= \{3x-2(y+2)\}\{4x+(3y-5)\}$
 $= (3x-2y-4)(4x+3y-5)$
 (3) 与式 $= (x^3)^2 - (y^3)^2 = (x^3+y^3)(x^3-y^3)$
 $= (x+y)(x^2-xy+y^2)(x-y)(x^2+xy+y^2)$
 $= (x+y)(x-y)(x^2-xy+y^2)(x^2+xy+y^2)$

【参考】 $x^6-y^6 = (x^2)^3 - (y^2)^3$ に着目して、次のように因数分解してもよい。

与式 $= (x^2)^3 - (y^2)^3 = (x^2-y^2)(x^4+x^2y^2+y^4)$
 $= (x+y)(x-y)\{x^4+2x^2y^2+y^4-x^2y^2\}$
 $= (x+y)(x-y)\{(x^2+y^2)^2 - (xy)^2\}$
 $= (x+y)(x-y)\{(x^2+y^2)+xy\}\{(x^2+y^2)-xy\}$
 $= (x+y)(x-y)(x^2+xy+y^2)(x^2-xy+y^2)$

3

- 【解答】 (1) $(x-y)(x-y-1)$ (2) $(3x+y)(3x-y)(9x^2+y^2)$
 (3) $(x+3y)(x-3y)(2x+y)(2x-y)$ (4) $(x+1)(x-2)(x+2)(x-3)$

【解説】

(1) $x^2-2xy+y^2-x+y = (x^2-2xy+y^2)-(x-y)$

$= (x-y)^2 - (x-y)$
 $= (x-y)(x-y-1)$

【別解】 (与式) $= x^2 - (2y+1)x + y(y+1)$
 $= (x-y)(x-y-1)$

(2) $81x^4 - y^4 = (9x^2)^2 - (y^2)^2$
 $= (9x^2+y^2)(9x^2-y^2)$
 $= (3x+y)(3x-y)(9x^2+y^2)$

(3) $4x^4 - 37x^2y^2 + 9y^4 = 4(x^2)^2 - 37y^2 \cdot x^2 + 9y^4$
 $= (x^2-9y^2)(4x^2-y^2)$
 $= (x+3y)(x-3y)(2x+y)(2x-y)$

$\frac{1}{4} \begin{matrix} \times & -9y^2 & \rightarrow & -36y^2 \\ & -y^2 & \rightarrow & -y^2 \end{matrix}$
 $\frac{4}{4} \quad \frac{9y^4}{9y^4} \quad \frac{-37y^2}{-37y^2}$

(4) $x^2-x = X$ とおくと、 $-8x^2+8x = -8X$ であるから
 $(x^2-x)^2 - 8x^2+8x+12 = X^2 - 8X+12$
 $= (X-2)(X-6)$
 $= (x^2-x-2)(x^2-x-6)$
 $= (x+1)(x-2)(x+2)(x-3)$

4

- 【解答】 (1) $x=4, -1$ (2) $x=1$ (3) $x=-\frac{1}{4}, \frac{5}{2}$

【解説】

- (1) $|2x-3|=5$ から $2x-3 = \pm 5$
 すなわち $2x=3+5$ または $2x=3-5$
 よって $x=4, -1$
 (2) $x-3 \geq 0$ すなわち $x \geq 3$ のとき $x-3=2x$
 これを解いて $x=-3$ これは $x \geq 3$ を満たさない。
 $x-3 < 0$ すなわち $x < 3$ のとき $-(x-3)=2x$
 これを解いて $x=1$ これは $x < 3$ を満たす。
 よって、方程式の解は $x=1$
 (3) $x \geq 1$ のとき $x+2(x-1)=x+3$
 これを解いて $x=\frac{5}{2}$ これは $x \geq 1$ を満たす。
 $0 \leq x < 1$ のとき $x-2(x-1)=x+3$
 これを解いて $x=-\frac{1}{2}$ これは $0 \leq x < 1$ を満たさない。
 $x < 0$ のとき $-x-2(x-1)=x+3$
 これを解いて $x=-\frac{1}{4}$ これは $x < 0$ を満たす。
 よって、方程式の解は $x=-\frac{1}{4}, \frac{5}{2}$

5 [西南学院大]

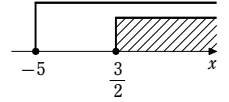
- 【解答】 (1) $x \leq -5, \frac{1}{5} \leq x$ (2) $-\frac{4}{3} \leq x \leq 6$

【解説】

- (1) [1] $2x-3 \geq 0, 3x+2 \geq 0$ すなわち $x \geq \frac{3}{2}$ のとき

$2x-3 \leq 3x+2$
 これを解いて $x \geq -5$

これと $x \geq \frac{3}{2}$ の共通範囲は $x \geq \frac{3}{2}$ ……①

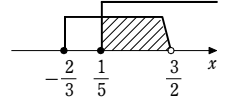


- [2] $2x-3 < 0, 3x+2 \geq 0$ すなわち $-\frac{2}{3} \leq x < \frac{3}{2}$

のとき $-(2x-3) \leq 3x+2$

すなわち $5x \geq 1$ これを解いて $x \geq \frac{1}{5}$

これと $-\frac{2}{3} \leq x < \frac{3}{2}$ の共通範囲は $\frac{1}{5} \leq x < \frac{3}{2}$ ……②

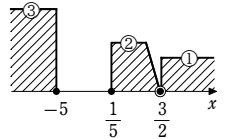


- [3] $2x-3 < 0, 3x+2 < 0$ すなわち $x < -\frac{2}{3}$ のとき

$-(2x-3) \leq -(3x+2)$

これを解いて $x \leq -5$

これと $x < -\frac{2}{3}$ の共通範囲は $x \leq -5$ ……③



不等式の解は①, ②, ③を合わせた範囲であるから

$x \leq -5, \frac{1}{5} \leq x$

- (2) [1] $x-1 \geq 0, x-3 \geq 0$ すなわち $x \geq 3$ のとき $x-1+2(x-3) \leq 11$

すなわち $3x \leq 18$ これを解いて $x \leq 6$

これと $x \geq 3$ の共通範囲は $3 \leq x \leq 6$ ……①

- [2] $x-1 \geq 0, x-3 < 0$ すなわち $1 \leq x < 3$ のとき $x-1-2(x-3) \leq 11$

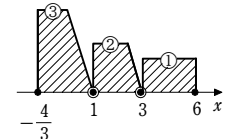
これを解いて $x \geq -6$

これと $1 \leq x < 3$ の共通範囲は $1 \leq x < 3$ ……②

- [3] $x-1 < 0, x-3 < 0$ すなわち $x < 1$ のとき $-(x-1)-2(x-3) \leq 11$

すなわち $-3x \leq 4$ これを解いて $x \geq -\frac{4}{3}$

これと $x < 1$ の共通範囲は $-\frac{4}{3} \leq x < 1$ ……③



不等式の解は①, ②, ③を合わせた範囲であるから

$-\frac{4}{3} \leq x \leq 6$

6

- 【解答】 (1) 28 (2) 144 (3) 3936 (4) $-\sqrt{2}$

【解説】

$x = \frac{4}{3+\sqrt{5}} = \frac{4(3-\sqrt{5})}{(3+\sqrt{5})(3-\sqrt{5})} = 3-\sqrt{5}$

$y = \frac{4}{3-\sqrt{5}} = \frac{4(3+\sqrt{5})}{(3-\sqrt{5})(3+\sqrt{5})} = 3+\sqrt{5}$

よって $x+y = (3-\sqrt{5}) + (3+\sqrt{5}) = 6$

$xy = (3-\sqrt{5})(3+\sqrt{5}) = 3^2 - (\sqrt{5})^2 = 4$

(1) $x^2+y^2 = (x+y)^2 - 2xy = 6^2 - 2 \cdot 4 = 36 - 8 = 28$

(2) $x^3+y^3 = (x+y)^3 - 3xy(x+y) = 6^3 - 3 \cdot 4 \cdot 6 = 216 - 72 = 144$

(3) $x^5+y^5 = (x^2+y^2)(x^3+y^3) - x^2y^3 - x^3y^2$

章末問題A

$$=(x^2+y^2)(x^3+y^3)-(x+y)(xy)^2$$

(1), (2)の結果から $x^5+y^5=28 \cdot 144-6 \cdot 4^2=3936$

(4) $(\sqrt{x}-\sqrt{y})^2=x+y-2\sqrt{xy}=6-2\sqrt{4}=6-4=2$

ここで、 $0 < 3-\sqrt{5} < 3+\sqrt{5}$ であるから $0 < x < y$

よって $\sqrt{x} < \sqrt{y}$ すなわち $\sqrt{x}-\sqrt{y} < 0$

したがって $\sqrt{x}-\sqrt{y}=-\sqrt{2}$

7

【解答】 $a^3+b^3=35$

【解説】

$a^2+b^2=13$ ……①, $a^4+b^4=97$ ……② とする。

②から $(a^2+b^2)^2-2a^2b^2=97$

①を代入して $13^2-2a^2b^2=97$ よって $a^2b^2=36$

$ab > 0$ であるから $ab=6$

①から $(a+b)^2-2ab=13$

$(a+b)^2-2 \times 6=13$ よって $(a+b)^2=25$

$a+b > 0$ であるから $a+b=5$

したがって $a^3+b^3=(a+b)(a^2-ab+b^2)=5(13-6)=35$

8

【解答】 $x^2+y^2+z^2=18, x^3+y^3+z^3=24\sqrt{3}$

【解説】

$x^2+y^2+z^2=(x+y+z)^2-2(xy+yz+zx)$

$= (2\sqrt{3})^2-2(-3)=18$

$x^3+y^3+z^3=(x+y+z)(x^2+y^2+z^2-(xy+yz+zx))+3xyz$

$= 2\sqrt{3}\{18-(-3)\}+3(-6\sqrt{3})=24\sqrt{3}$

9

【解答】 $a=2$

【解説】

$A \cap \bar{B} = \{2, 5\}$ であるから $5 \in A$

よって $a^2+1=5$ ゆえに $a=\pm 2$

[1] $a=2$ のとき $a+7=9, a^2-4a+5=1$

よって $A=\{2, 4, 5\}, B=\{4, 9, 1\}$

このとき、 $A \cap \bar{B} = \{2, 5\}$ となり、条件に適する。

[2] $a=-2$ のとき $a+7=5, a^2-4a+5=17$

よって $A=\{2, 4, 5\}, B=\{4, 5, 17\}$

このとき、 $A \cap \bar{B} = \{2\}$ となり、条件に適さない。

以上から $a=2$

10

【解答】 (1) $A \cap C = \{x \mid 4 < x < 5\}, A \cup \bar{C} = \{x \mid -1 \leq x < 5\}$

(2) $A \cap B = \{1, 2, 4\}, A \cap B \cap C = \{1, 2\},$

$A \cup B \cup C = \{1, 2, 3, 4, 5, 6, 10, 12, 15, 20, 30\},$

$A \cup (B \cap C) = \{1, 2, 3, 4, 5, 6, 10, 12\}$

【解説】

(1) $\bar{A} = \{x \mid x < -1, 5 \leq x\},$

$\bar{B} = \{x \mid x \leq -3, 4 < x\}$

であるから

$C = \bar{A} \cup \bar{B} = \{x \mid x < -1, 4 < x\}$

よって $A \cap C = \{x \mid 4 < x < 5\}$

また、 $\bar{C} = \{x \mid -1 \leq x \leq 4\}$ であるから

$A \cup \bar{C} = \{x \mid -1 \leq x < 5\}$

【別解】 ド・モルガンの法則により

$C = \bar{A} \cup \bar{B} = \overline{A \cap B} = \overline{\{x \mid -1 \leq x \leq 4\}}$

$= \{x \mid x < -1, 4 < x\}$ (以下同じ)

(2) $A = \{1, 2, 3, 4, 6, 12\},$

$B = \{1, 2, 4, 5, 10, 20\},$

$C = \{1, 2, 3, 5, 6, 10, 15, 30\}$

であるから

$A \cap B = \{1, 2, 4\},$

$A \cap B \cap C = \{1, 2\},$

$A \cup B \cup C$

$= \{1, 2, 3, 4, 5, 6, 10, 12, 15, 20, 30\}$

また、 $B \cap C = \{1, 2, 5, 10\}$ であり

$A \cup (B \cap C) = \{1, 2, 3, 4, 5, 6, 10, 12\}$

11

【解答】 (1) 十分条件であるが必要条件ではない (2) 必要十分条件である

(3) 十分条件であるが必要条件ではない

(4) 必要条件であるが十分条件ではない

(5) 必要条件でも十分条件でもない

(6) 必要条件であるが十分条件ではない

【解説】

(1) $a=3$ かつ $b=2$ のとき $a+b=3+2=5$

よって、「 $a=3$ かつ $b=2 \implies a+b=5$ 」は真である。

$a=1, b=4$ のとき、 $a+b=5$ であるが、 $a=3$ かつ $b=2$ でない。

よって、「 $a+b=5 \implies a=3$ かつ $b=2$ 」は偽である。

したがって、十分条件であるが必要条件ではない。

(2) $x=3$ のとき $x^2-6x+9=3^2-6 \cdot 3+9=0$

よって、「 $x=3 \implies x^2-6x+9=0$ 」は真である。

$x^2-6x+9=0$ を解くと $(x-3)^2=0$ ゆえに $x=3$

よって、「 $x^2-6x+9=0 \implies x=3$ 」は真である。

したがって、必要十分条件である。

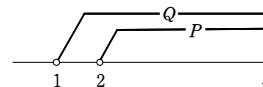
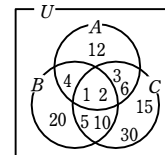
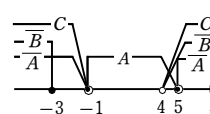
(3) $P = \{x \mid x > 2\}, Q = \{x \mid x > 1\}$ とする。

P, Q は右の図のようになり $P \subset Q$

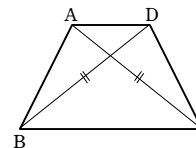
よって、「 $x > 2 \implies x > 1$ 」は真であり、

「 $x > 1 \implies x > 2$ 」は偽である。

したがって、十分条件であるが必要条件ではない。



(4) 右の図のような $AD \parallel BC, AB=DC$ の等脚台形において、2本の対角線の長さは等しいが、長方形でない。よって、「2本の対角線の長さが等しい \implies 長方形である」は偽である。



また、「長方形である \implies 2本の対角線の長さは等しい」は真である。

したがって、必要条件であるが十分条件ではない。

(5) $a=1, b=2, c=-1$ のとき、 $a < b$ であるが、 $ac < bc$ でない。

よって、「 $a < b \implies ac < bc$ 」は偽である。

$a=-1, b=-2, c=-1$ のとき、 $ac < bc$ であるが、 $a < b$ でない。

よって、「 $ac < bc \implies a < b$ 」は偽である。

したがって、必要条件でも十分条件でもない。

(6) 12は4かつ6の倍数であるが、24の倍数でない。

よって、「4かつ6の倍数 \implies 24の倍数」は偽である。

また、「24の倍数 \implies 4かつ6の倍数」は真である。

したがって、必要条件であるが十分条件ではない。

章末問題B

1

【解答】 (1) $4a^2 + 4b^2 + 4c^2$ (2) $-x^4 - y^4 - z^4 + 2x^2y^2 + 2y^2z^2 + 2z^2x^2$

【解説】

(1) $(a+b+c)^2 + (b+c-a)^2 + (c+a-b)^2 + (a+b-c)^2$
 $= [a+(b+c)]^2 + [-a+(b+c)]^2 + [a-(b-c)]^2 + [a+(b-c)]^2$
 $= a^2 + 2a(b+c) + (b+c)^2 + a^2 - 2a(b+c) + (b+c)^2$
 $+ a^2 - 2a(b-c) + (b-c)^2 + a^2 + 2a(b-c) + (b-c)^2$
 $= 4a^2 + 2(b+c)^2 + 2(b-c)^2$
 $= 4a^2 + 2(b^2 + 2bc + c^2) + 2(b^2 - 2bc + c^2)$
 $= 4a^2 + 4b^2 + 4c^2$

【別解】 $(a+b+c)^2 + (b+c-a)^2 + (c+a-b)^2 + (a+b-c)^2$
 $= a^2 + b^2 + c^2 + 2ab + 2bc + 2ca + a^2 + b^2 + c^2 - 2ab + 2bc - 2ca$
 $+ a^2 + b^2 + c^2 - 2ab - 2bc + 2ca + a^2 + b^2 + c^2 + 2ab - 2bc - 2ca$
 $= 4a^2 + 4b^2 + 4c^2$

(2) $(x+y+z)(y+z-x)(z+x-y)(x+y-z)$
 $= [(y+z)+x][(y+z)-x] \times [x-(y-z)][x+(y-z)]$
 $= [(y+z)^2 - x^2][x^2 - (y-z)^2]$
 $= -x^4 + [(y+z)^2 + (y-z)^2]x^2 - (y+z)^2(y-z)^2$
 $= -x^4 + 2(y^2 + z^2)x^2 - (y^2 - z^2)^2$
 $= -x^4 + 2x^2y^2 + 2z^2x^2 - y^4 + 2y^2z^2 - z^4$
 $= -x^4 - y^4 - z^4 + 2x^2y^2 + 2y^2z^2 + 2z^2x^2$

2

【解答】 (1) $(a+b-1)(ab+1)$ (2) $(x-y)(x-1)(y-1)$ (3) $-(a-b)(b-c)(c-a)$
 (4) $(a+b)(b+c)(c+a)$

【解説】

(1) $a^2b + ab^2 + a + b - ab - 1$
 $= ba^2 + (b^2 - b + 1)a + (b - 1)$
 $= [a + (b-1)](ba + 1)$
 $= (a+b-1)(ab+1)$

1	\times	$b-1$	\rightarrow	$b^2 - b$
b	\times	1	\rightarrow	1
b	\times	$b-1$	\rightarrow	$b^2 - b + 1$

【別解】 $a^2b + ab^2 + a + b - ab - 1 = ab(a+b) + (a+b) - (ab+1)$
 $= (a+b)(ab+1) - (ab+1)$
 $= (ab+1)(a+b-1)$

(2) $x^2(y-1) + y^2(1-x) + x - y = (y-1)x^2 + y^2 - y^2x + x - y$
 $= (y-1)x^2 - (y^2-1)x + y^2 - y$
 $= (y-1)x^2 - (y+1)(y-1)x + y(y-1)$
 $= (y-1)\{x^2 - (y+1)x + y\}$
 $= (y-1)(x-1)(x-y)$
 $= (x-y)(x-1)(y-1)$

【別解】 $x^2(y-1) + y^2(1-x) + x - y = x^2y - x^2 + y^2 - xy^2 + x - y$
 $= (x^2y - xy^2) - (x^2 - y^2) + (x - y)$
 $= xy(x-y) - (x+y)(x-y) + (x-y)$
 $= (x-y)(xy - x - y + 1)$
 $= (x-y)\{(y-1)x - (y-1)\}$
 $= (x-y)(x-1)(y-1)$

(3) $a^2(b-c) + b^2(c-a) + c^2(a-b) = (b-c)a^2 + b^2c - b^2a + c^2a - c^2b$
 $= (b-c)a^2 - (b^2-c^2)a + b^2c - bc^2$
 $= (b-c)a^2 - (b+c)(b-c)a + bc(b-c)$
 $= (b-c)\{a^2 - (b+c)a + bc\}$
 $= (b-c)(a-b)(a-c)$
 $= -(a-b)(b-c)(c-a)$

(4) $a^2(b+c) + b^2(c+a) + c^2(a+b) + 2abc$
 $= (b+c)a^2 + b^2c + b^2a + c^2a + c^2b + 2abc$
 $= (b+c)a^2 + (b^2 + 2bc + c^2)a + b^2c + bc^2$
 $= (b+c)a^2 + (b+c)^2a + bc(b+c)$
 $= (b+c)\{a^2 + (b+c)a + bc\}$
 $= (b+c)(a+b)(a+c)$
 $= (a+b)(b+c)(c+a)$

3

【解答】 (1) $(a+b)(a-b)(a^2 + ab + b^2)(a^2 - ab + b^2)$
 (2) $(xy+x+1)(xy+y+1)$ (3) $(a+b+c)(a-b-c)(a+b-c)(a-b+c)$

【解説】

(1) (与式) $= (a^3)^2 - (b^3)^2 = (a^3 + b^3)(a^3 - b^3)$
 $= (a+b)(a^2 - ab + b^2)(a-b)(a^2 + ab + b^2)$

【別解】 (与式) $= (a^2)^3 - (b^2)^3 = (a^2 - b^2)(a^4 + a^2b^2 + b^4)$
 $= (a+b)(a-b)\{(a^2 + b^2)^2 - (ab)^2\}$
 $= (a+b)(a-b)(a^2 + ab + b^2)(a^2 - ab + b^2)$

(2) (与式) $= (x+1)\{xy^2 + (x+1)y + 1\} + xy$
 $= x(x+1)y^2 + \{(x+1)^2 + x\}y + x + 1$
 $= \{x \cdot y + (x+1)\}\{(x+1) \cdot y + 1\}$
 $= (xy+x+1)(xy+y+1)$

x	\times	$x+1$	\rightarrow	$(x+1)^2$
$x+1$	\times	1	\rightarrow	x
$x(x+1)$	\times	$x+1$	\rightarrow	$(x+1)^2 + x$

【別解】 $(x+1)(y+1)(xy+1) + xy = (xy+x+y+1)(xy+1) + xy$
 $= \{(xy+1) + x + y\}(xy+1) + xy$
 $= (xy+1)^2 + (x+y)(xy+1) + xy$
 $= \{(xy+1) + x\}\{(xy+1) + y\}$
 $= (xy+x+1)(xy+y+1)$

(3) (与式) $= a^4 - 2(b^2 + c^2)a^2 + b^4 - 2b^2c^2 + c^4$
 $= a^4 - 2(b^2 + c^2)a^2 + (b^2 - c^2)^2$
 $= a^4 - 2(b^2 + c^2)a^2 + \{(b+c)(b-c)\}^2$
 $= a^4 - \{(b+c)^2 + (b-c)^2\}a^2 + (b+c)^2(b-c)^2$
 $= \{a^2 - (b+c)^2\}a^2 - (b-c)^2$
 $= \{a + (b+c)\}\{a - (b+c)\}\{a + (b-c)\}\{a - (b-c)\}$
 $= (a+b+c)(a-b-c)(a+b-c)(a-b+c)$

【別解】 $a^4 + b^4 + c^4 - 2a^2b^2 - 2a^2c^2 - 2b^2c^2$
 $= \{(a^2)^2 + (b^2)^2 + (-c^2)^2 + 2a^2b^2 - 2b^2c^2 - 2c^2a^2\} - 4a^2b^2$
 $= (a^2 + b^2 - c^2)^2 - (2ab)^2$
 $= \{(a^2 + b^2 - c^2) + 2ab\}\{(a^2 + b^2 - c^2) - 2ab\}$
 $= \{(a^2 + 2ab + b^2) - c^2\}\{(a^2 - 2ab + b^2) - c^2\}$
 $= \{(a+b)^2 - c^2\}\{(a-b)^2 - c^2\}$

$= (a+b+c)(a+b-c)(a-b+c)(a-b-c)$

4

【解答】 $(x+1)(x-1)(x+y)(y+1)$

【解説】

(与式) $= (x^2-1)y^2 + (x^3+x^2-x-1)y + x^3-x$
 $= (x+1)(x-1)y^2 + (x+1)^2(x-1)y + x(x+1)(x-1)$
 $= (x+1)(x-1)\{y^2 + (x+1)y + x\} = (x+1)(x-1)(x+y)(y+1)$

5

【解答】 $(a-b)(a+b+c)(a+b-c)$

【解説】

$a^3 + a^2b - a(c^2 + b^2) + bc^2 - b^3 = a^3 + a^2b - ac^2 - ab^2 + bc^2 - b^3$
 $= -(a-b)c^2 + a^3 - b^3 + a^2b - ab^2$
 $= -(a-b)c^2 + (a-b)(a^2 + ab + b^2) + ab(a-b)$
 $= (a-b)\{-c^2 + (a^2 + ab + b^2) + ab\}$
 $= (a-b)\{a^2 + 2ab + b^2 - c^2\} = (a-b)\{(a+b)^2 - c^2\}$
 $= (a-b)\{(a+b)+c\}\{(a+b)-c\}$
 $= (a-b)(a+b+c)(a+b-c)$

6

【解答】 $a+b+c$

【解説】

(与式) $= \frac{-a^3(b-c) - b^3(c-a) - c^3(a-b)}{(a-b)(b-c)(c-a)}$
 (分子) $= -a^3(b-c) + a(b^3 - c^3) - bc(b^2 - c^2) = -(b-c)\{a^3 - a(b^2 + bc + c^2) + bc(b+c)\}$
 $= -(b-c)\{b^2c - a + b(c^2 - ca) + (a^3 - c^2a)\}$
 $= -(b-c)\{b^2c - a + bc(c-a) - a(c^2 - a^2)\} = -(b-c)(c-a)\{b^2 + bc - a(c+a)\}$
 $= -(b-c)(c-a)\{-c(a-b) - (a^2 - b^2)\} = -(b-c)(c-a)(a-b)\{-c - (a+b)\}$
 $= (a-b)(b-c)(c-a)(a+b+c)$

よって (与式) $= a+b+c$

7

【解答】 (1) $a \neq 0$ のとき $x=1, \frac{1}{a}$; $a=0$ のとき $x=1$
 (2) $a \neq \pm 1$ のとき $x = \frac{1}{a+1}, y = \frac{1}{a-1}$
 $a=1$ のとき $x=1-t, y=t$ (t は実数)
 $a=-1$ のとき 解はない

【解説】

(1) 方程式の左辺を因数分解して $(x-1)(ax-1)=0$
 ゆえに $x-1=0$ または $ax-1=0$
 よって $a \neq 0$ のとき $x=1, \frac{1}{a}$; $a=0$ のとき $x=1$

(2) ① \times ② から $(a^2-1)x = a-1$
 すなわち $(a+1)(a-1)x = a-1 \dots \dots$ ③
 $a \neq \pm 1$ のとき $x = \frac{1}{a+1}$ ① から $y = 1 - a \cdot \frac{1}{a+1} = \frac{1}{a+1}$
 $a=1$ のとき ①, ② はともに $x+y=1$ となる。

章末問題B

$y=t$ (t は実数) とすると $x=1-y=1-t$
 $a=-1$ のとき ③は $0 \cdot x = -2$ これを満たす x の値はない。
 したがって $a \neq \pm 1$ のとき $x = \frac{1}{a+1}, y = \frac{1}{a+1}$
 $a=1$ のとき $x=1-t, y=t$ (t は実数)
 $a=-1$ のとき 解はない

8

【解答】 (1) $6 \leq x \leq 12$ (2) $k \geq 2$ (3) $k \geq 8$

【解説】

(1) ①から $-2 \leq |x-9| - 1 \leq 2$
 よって $-1 \leq |x-9| \leq 3$
 $|x-9| \geq -1$ は常に成り立つ。
 $|x-9| \leq 3$ から $-3 \leq x-9 \leq 3$ よって $6 \leq x \leq 12$

(2) $k > 0$ であるから、②より $-k \leq x-4 \leq k$

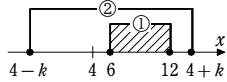
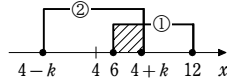
よって $4-k \leq x \leq 4+k$
 $k > 0$ から $4-k < 4$

①、②をともに満たす実数 x が存在するための条件は

$6 \leq 4+k$
 よって $k \geq 2$

(3) (2)により、①の解が②の解に含まれるための条件は

$12 \leq 4+k$
 よって $k \geq 8$



9

【解答】 (1) (ア) -1 (イ) 2 (ウ) 1 (エ) 4

(2) (オ) 3 (カ) 3 (キ) 2

(3) (ク) 1 (ケ) 7 (コ) 10 (サ) 4 (シ) 7

【解説】

(1) $a=1$ のとき、方程式①は $|x-1|=3|x|$

(i) $x < 0$ のとき、方程式は $-(x-1) = -3x$

これを解くと $x = -\frac{1}{2}$ これは、 $x < 0$ を満たす。

(ii) $0 \leq x < 1$ のとき、方程式は $-(x-1) = 3x$

これを解くと $x = \frac{1}{4}$ これは、 $0 \leq x < 1$ を満たす。

(iii) $x \geq 1$ のとき、方程式は $x-1 = 3x$

これを解くと $x = -\frac{1}{2}$ これは、 $x \geq 1$ を満たさない。

(i), (ii), (iii)より、 $a=1$ のとき、①の解は $x = \frac{7-1}{12}, \frac{7}{12}$

(2) (i) $x < 0$ のとき、方程式は $-a(x-a) = -3x$

これを解くと、 $a \neq 3$ のとき $x = \frac{a^2}{a-3}$

$a < 3$ のとき、これは、 $x < 0$ を満たす。

(ii) $0 \leq x < a$ のとき、方程式は $-a(x-a) = 3x$

これを解くと $x = \frac{a^2}{a+3}$ これは、 $0 \leq x < a$ を満たす。

(iii) $x \geq a$ のとき、方程式は $a(x-a) = 3x$

これを解くと、 $a \neq 3$ のとき $x = \frac{a^2}{a-3}$

$a > 3$ のとき、これは、 $x \geq a$ を満たす。

(i), (ii), (iii)より、①の解の個数は、 $a \neq 3$ のとき 2個、 $a=3$ のとき 1個となる。

したがって、①の解の個数が1個のとき、 $a = 3$ であり、その解は

$$x = \frac{a^2}{a+3} = \frac{3^2}{3+3} = \frac{9}{6} = \frac{3}{2}$$

(3) $x=2$ が①の解であるとき $|a|2-a| = 6 \dots\dots ②$

[1] $0 < a < 2$ のとき、方程式②は

$$a(2-a) = 6 \quad \text{すなわち} \quad a^2 - 2a + 6 = 0$$

2次方程式 $a^2 - 2a + 6 = 0$ の判別式を D とすると $D = (-2)^2 - 4 \cdot 1 \cdot 6 = -20 < 0$ であるから、方程式②は実数解をもたない。

[2] $a \geq 2$ のとき、方程式②は

$$-a(2-a) = 6 \quad \text{すなわち} \quad a^2 - 2a - 6 = 0$$

これを解くと $a = 1 \pm \sqrt{7}$

$a \geq 2$ を満たすのは $a = 1 + \sqrt{7}$

[1], [2]より、 $x=2$ が①の解であるとき $a = 1 + \sqrt{7}$

$a = 1 + \sqrt{7}$ とする。

$1 + \sqrt{7} > 3$ であるから、(2)より①の解は $x = \frac{a^2}{a-3}, \frac{a^2}{a+3}$

$$\begin{aligned} \text{ここで} \quad \frac{a^2}{a-3} &= \frac{(1+\sqrt{7})^2}{(1+\sqrt{7})-3} = \frac{(2\sqrt{7}+8)(\sqrt{7}+2)}{(\sqrt{7}-2)(\sqrt{7}+2)} \\ &= \frac{14+4\sqrt{7}+8\sqrt{7}+16}{(\sqrt{7})^2-2^2} = 10+4\sqrt{7} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \frac{a^2}{a+3} &= \frac{(1+\sqrt{7})^2}{(1+\sqrt{7})+3} = \frac{(2\sqrt{7}+8)(4-\sqrt{7})}{(4+\sqrt{7})(4-\sqrt{7})} \\ &= \frac{8\sqrt{7}-14+32-8\sqrt{7}}{4^2-(\sqrt{7})^2} = 2 \end{aligned}$$

したがって、①の解は $x=2, 10+4\sqrt{7}$

10

【解答】 (1) 順に 52, 194 (2) $4 + \sqrt{2}$ (3) $\sqrt{2} - \sqrt{3} - 2 + \sqrt{6}$ (4) $\frac{\sqrt{30}}{3}$

【解説】

(1) $x=2+\sqrt{3}, y=2-\sqrt{3}$ とおくと

$$x+y = (2+\sqrt{3}) + (2-\sqrt{3}) = 4,$$

$$xy = (2+\sqrt{3})(2-\sqrt{3}) = 4-3=1$$

$$\begin{aligned} \text{よって} \quad (2+\sqrt{3})^3 + (2-\sqrt{3})^3 &= x^3 + y^3 = (x+y)^3 - 3xy(x+y) \\ &= 4^3 - 3 \cdot 1 \cdot 4 = 52 \end{aligned}$$

$$\text{また} \quad x^2 + y^2 = (x+y)^2 - 2xy = 4^2 - 2 \cdot 1 = 14$$

$$\begin{aligned} \text{ゆえに} \quad (2+\sqrt{3})^4 + (2-\sqrt{3})^4 &= x^4 + y^4 = (x^2 + y^2)^2 - 2(xy)^2 \\ &= 14^2 - 2 \cdot 1^2 = 194 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} (2) \quad \frac{4}{1+\sqrt{2}+\sqrt{3}} &= \frac{4(1+\sqrt{2}-\sqrt{3})}{\{(1+\sqrt{2})+\sqrt{3}\}\{(1+\sqrt{2})-\sqrt{3}\}} = \frac{4(1+\sqrt{2}-\sqrt{3})}{(1+\sqrt{2})^2 - (\sqrt{3})^2} \\ &= \frac{4(1+\sqrt{2}-\sqrt{3})}{3+2\sqrt{2}-3} = \frac{4(1+\sqrt{2}-\sqrt{3})}{2\sqrt{2}} = \frac{2(1+\sqrt{2}-\sqrt{3})}{\sqrt{2}} \\ &= \frac{2(1+\sqrt{2}-\sqrt{3})\sqrt{2}}{(\sqrt{2})^2} = \frac{2(1+\sqrt{2}-\sqrt{3})\sqrt{2}}{2} \\ &= (1+\sqrt{2}-\sqrt{3})\sqrt{2} = \sqrt{2} + 2 - \sqrt{6} \end{aligned}$$

$$\sqrt{10+4\sqrt{6}} = \sqrt{10+2\sqrt{24}} = \sqrt{(6+4)+2\sqrt{6 \cdot 4}} = \sqrt{6} + \sqrt{4} = \sqrt{6} + 2$$

$$\text{よって} \quad \frac{4}{1+\sqrt{2}+\sqrt{3}} + \sqrt{10+4\sqrt{6}} = (\sqrt{2} + 2 - \sqrt{6}) + (\sqrt{6} + 2) = 4 + \sqrt{2}$$

$$\begin{aligned} (3) \quad \frac{1}{\sqrt{2}+\sqrt{3}+2+\sqrt{6}} &= \frac{1}{(\sqrt{2}+2)+(\sqrt{3}+\sqrt{6})} = \frac{1}{\sqrt{2}(1+\sqrt{2})+\sqrt{3}(1+\sqrt{2})} \\ &= \frac{1}{(1+\sqrt{2})(\sqrt{2}+\sqrt{3})} \\ &= \frac{(1-\sqrt{2})(\sqrt{2}-\sqrt{3})}{\{(1+\sqrt{2})(1-\sqrt{2})\}\{(\sqrt{2}+\sqrt{3})(\sqrt{2}-\sqrt{3})\}} \\ &= \frac{\sqrt{2}-\sqrt{3}-2+\sqrt{6}}{(1-2)(2-3)} = \sqrt{2}-\sqrt{3}-2+\sqrt{6} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} (4) \quad \frac{1}{\sqrt{2}-\sqrt{3}+\sqrt{5}} + \frac{1}{\sqrt{2}+\sqrt{3}-\sqrt{5}} - \frac{1}{\sqrt{2}-\sqrt{3}-\sqrt{5}} - \frac{1}{\sqrt{2}+\sqrt{3}+\sqrt{5}} \\ &= \left(\frac{1}{\sqrt{2}-\sqrt{3}+\sqrt{5}} - \frac{1}{\sqrt{2}-\sqrt{3}-\sqrt{5}} \right) + \left(\frac{1}{\sqrt{2}+\sqrt{3}-\sqrt{5}} - \frac{1}{\sqrt{2}+\sqrt{3}+\sqrt{5}} \right) \\ &= \frac{(\sqrt{2}-\sqrt{3}-\sqrt{5}) - (\sqrt{2}-\sqrt{3}+\sqrt{5})}{(\sqrt{2}-\sqrt{3}+\sqrt{5})(\sqrt{2}-\sqrt{3}-\sqrt{5})} + \frac{(\sqrt{2}+\sqrt{3}+\sqrt{5}) - (\sqrt{2}+\sqrt{3}-\sqrt{5})}{(\sqrt{2}+\sqrt{3}-\sqrt{5})(\sqrt{2}+\sqrt{3}+\sqrt{5})} \\ &= \frac{-2\sqrt{5}}{(\sqrt{2}-\sqrt{3})^2 - (\sqrt{5})^2} + \frac{2\sqrt{5}}{(\sqrt{2}+\sqrt{3})^2 - (\sqrt{5})^2} = \frac{-2\sqrt{5}}{5-2\sqrt{6}-5} + \frac{2\sqrt{5}}{5+2\sqrt{6}-5} \\ &= \frac{\sqrt{5}}{\sqrt{6}} + \frac{\sqrt{5}}{\sqrt{6}} = \frac{2\sqrt{5}}{\sqrt{6}} = \frac{2\sqrt{5} \cdot \sqrt{6}}{(\sqrt{6})^2} = \frac{2\sqrt{30}}{6} = \frac{\sqrt{30}}{3} \end{aligned}$$

11

【解答】 $\frac{\sqrt{5}}{5}$

【解説】

$a+b=3, ab=1$ から

$$\left(\frac{\sqrt{a}-\sqrt{b}}{\sqrt{a}+\sqrt{b}} \right)^2 = \frac{a+b-2\sqrt{ab}}{a+b+2\sqrt{ab}} = \frac{3-2}{3+2} = \frac{1}{5}$$

$$a > b \text{ から } \frac{\sqrt{a}-\sqrt{b}}{\sqrt{a}+\sqrt{b}} > 0 \quad \text{よって} \quad \frac{\sqrt{a}-\sqrt{b}}{\sqrt{a}+\sqrt{b}} = \frac{1}{\sqrt{5}} = \frac{\sqrt{5}}{5}$$

12

【解答】 (1) 略 (2) 略

【解説】

(1) $x \in B$ ならば $x=6n+5$ (n は整数) と表される。

このとき $x=6(n+1)-1=3 \cdot 2(n+1)-1$

$2(n+1)$ は整数であるから $x \in A$

よって、 $x \in B$ ならば $x \in A$ であるから $A \supset B$

(2) [1] $x \in A$ ならば $x=2n-1$ (n は整数) と表される。

このとき $x=2(n-1)+1$

$n-1$ は整数であるから $x \in B$

章末問題B

よって、 $x \in A$ ならば $x \in B$ であるから $A \subset B$

[2] $x \in B$ ならば $x = 2n + 1$ (n は整数) と表される。

このとき $x = 2(n + 1) - 1$

$n + 1$ は整数であるから $x \in A$

よって、 $x \in B$ ならば $x \in A$ であるから $A \supset B$

[1], [2] から $A = B$

[13]

[解答] (1) $P = \{-3, a\}$, $Q = \{1, b\}$, $R = \{2a, 5b\}$

(2) 負の数 -3 ; $a = -\frac{3}{2}$, $b = -3$

[解説]

(1) ① から $(x + 3)(x - a) = 0$ よって $P = \{-3, a\}$

② から $(x - 1)(x - b) = 0$ よって $Q = \{1, b\}$

③ から $(x - 2a)(x - 5b) = 0$ よって $R = \{2a, 5b\}$

(2) $P \cap Q \cap R$ がただ 1 つの負の数からなることと、 $Q = \{1, b\}$ から $P \cap Q \cap R = \{b\}$

$b = 5b$ とすると、 $b = 0$ となり不適であるから $b = 2a \dots\dots$ ④

$b = a$ とすると、④ から $b = 0$ となり不適である。

したがって $b = -3$

このとき、④ から $a = -\frac{3}{2}$

以上から、求める負の数は -3 であり、そのときの a, b の値は

$$a = -\frac{3}{2}, b = -3$$

[14]

[解答] 5, 15, 25, 35, 45

[解説]

$U = \{1, 2, 3, \dots, 49\}$

$50 = 2 \cdot 5^2$ であるから $V = \{2, 4, \dots, 48, 5, 15, 25, 35, 45\}$

$W = \{2, 4, \dots, 48\}$

(i) から $A \cup \overline{B} = V$

$\overline{A \cap B} = \overline{A \cup \overline{B}}$, (ii) から $\overline{A \cup \overline{B}} = W$

よって $A = (A \cup \overline{B}) \cap (A \cup B) = V \cap \overline{W}$

したがって、 A の要素は V の要素から W の要素を除いたもので

5, 15, 25, 35, 45

[15]

[解答] (1) 略 (2) 略 (3) 略

[解説]

(1) 与えられた命題の対偶は

「 a, b がともに 3 の倍数でないならば、 ab は 3 の倍数でない」

a, b がともに 3 の倍数でないならば、 k, l を整数として $a = 3k \pm 1$, $b = 3l \pm 1$ (複号任意) と表される。

このとき $ab = \begin{cases} (3k+1)(3l+1) \\ (3k-1)(3l+1) \end{cases} = \begin{cases} 9kl \pm 3k + 3l \pm 1 \\ 9kl \pm 3k - 3l \mp 1 \end{cases} = \begin{cases} 3(3kl \pm k + l) \pm 1 \\ 3(3kl \pm k - l) \mp 1 \end{cases}$ (複号同順)

よって、 ab は 3 の倍数でない。

したがって、対偶が真であるから、もとの命題は真である。

(2) ab が 3 の倍数であるから、(1) より a または b は 3 の倍数である。

章末問題C

[1]

[解答] (1) 略 (2) 略 (3) 略

[解説]

(1) $x \in D(m) \cap D(n)$ ならば $x \in D(m+n)$ を示す。

$x \in D(m) \cap D(n)$ より、 $x \in D(m)$ かつ $x \in D(n)$ であるから、 x は m の約数かつ n の約数である。

すなわち $m = xm_1$ かつ $n = xn_1$ (m_1, n_1 は自然数)

このとき $m+n = xm_1 + xn_1 = x(m_1 + n_1)$

よって、 x は $m+n$ の約数であるから $x \in D(m+n)$

したがって $D(m) \cap D(n) \subset D(m+n)$

(2) $y \in D(m) \cup D(n)$ ならば $y \in D(mn)$ を示す。

$y \in D(m) \cup D(n)$ より、 $y \in D(m)$ または $y \in D(n)$ であるから、 y は m の約数または n の約数である。

すなわち $m = ym_2$ または $n = yn_2$ (m_2, n_2 は自然数)

$m = ym_2$ のとき $mn = (ym_2)n = y(m_2n)$

$n = yn_2$ のとき $mn = m(yn_2) = y(mn_2)$

よって、いずれの場合も y は mn の約数であるから $y \in D(mn)$

したがって $D(m) \cup D(n) \subset D(mn)$

(3) $m \in D(n)$ のとき、 $n = mn_3$ (n_3 は自然数) と表される。

このとき、 $D(m)$ の任意の要素 z について、 $m = zm_3$ (m_3 は自然数) と表される。

よって $n = mn_3 = (zm_3)n_3 = z(m_3n_3)$

ゆえに、 $z \in D(n)$ であるから $D(m) \subset D(n)$

逆に、 $D(m) \subset D(n)$ のとき、 m は明らかに $D(m)$ の要素である。

$D(m) \subset D(n)$ であるから $m \in D(n)$

[2]

[解答] (1) 略 (2) 略 (3) 略

[解説]

(1) $m \in (A \cap B)'$ ならば $m \in (A' \cap B')$ を示す。

$m \in (A \cap B)'$ であるとき、次の [1] または [2] の場合が考えられる。

[1] m は奇数で $m \in (A \cap B)$ [2] $2m \in (A \cap B)$

[1] のとき、 m が奇数で $m \in A$ かつ $m \in B$ であるから

$m \in A'$ かつ $m \in B'$

[2] のとき、 $2m \in A$ かつ $2m \in B$ で、 $2m$ は偶数であるから

$m \in A'$ かつ $m \in B'$

よって、[1], [2] のいずれの場合にも $m \in (A' \cap B')$ が成り立つ。

したがって $(A \cap B)' \subset (A' \cap B')$

(2) 仮定より、 $7 \in (A \cap B)$ かつ $14 \in (A \cap B)$ であるから $7 \in (A \cap B)'$

一方、 $7 \in A$, $14 \in B$ であるから $7 \in (A' \cap B')$

すなわち、 $A' \cap B'$ に含まれ、 $(A \cap B)'$ に含まれない要素 7 が存在する。

したがって $(A \cap B)' \not\subset (A' \cap B')$

(3) $A \neq \emptyset$ であるから、 A には最小の要素 n が存在し、 n は偶数である。

よって $\frac{n}{2} \in A'$

一方、 $\frac{n}{2} < n$ であり、 n が A の最小の要素であることから $\frac{n}{2} \notin A$

章末問題C

すなわち、 A' に含まれ、 A に含まれない要素 $\frac{n}{2}$ が存在する。

したがって $A' \neq A$

3

【解答】 略

【解説】

[1] $a \in A$ ならば $a = 2m + 3n$ ($m \in \mathbb{Z}, n \in \mathbb{Z}$) と表される。

また $2m + 3n = 3(-m + n) + 5m$
 $-m + n \in \mathbb{Z}, m \in \mathbb{Z}$ であるから $a \in B$
 よって $A \subset B$

[2] $b \in B$ ならば $b = 3m + 5n$ ($m \in \mathbb{Z}, n \in \mathbb{Z}$) と表される。

また $3m + 5n = 2n + 3(m + n)$
 $n \in \mathbb{Z}, m + n \in \mathbb{Z}$ であるから $b \in A$
 よって $B \subset A$

[1], [2] より、 $A \subset B$ かつ $B \subset A$ であるから $A = B$

4

【解答】 (1) 略 (2) 略

【解説】

(1) 方程式が有理数の解 $x = \alpha$ をもつとする。 $\alpha = 0$ のとき、 α は整数である。

$\alpha > 0$ のとき、 $\alpha = \frac{n}{m}$ (m, n は互いに素な自然数) とおく。

$x = \alpha$ は方程式の解であるから $\alpha^3 + a\alpha^2 + b\alpha + c = 0$

すなわち $\left(\frac{n}{m}\right)^3 + a\left(\frac{n}{m}\right)^2 + b \cdot \frac{n}{m} + c = 0$

ゆえに $n^3 + amn^2 + bm^2n + cm^3 = 0$

よって $n^3 = -m(an^2 + bmn + cm^2)$

a, b, c, m, n は整数であるから、 n^3 は m の倍数である。また、 m と n は互いに素であるから、 m と n^3 も互いに素である。

したがって、 $m = 1$ であり、 α は整数である。

$\alpha < 0$ のときは $\alpha = -\frac{n}{m}$ とおくと、同様に示される。

(2) 方程式 $x^3 + 2x^2 + 2 = 0$ が有理数の解 $x = \alpha$ をもつと仮定する。

(1) から、 α は整数である。

$\alpha^3 + 2\alpha^2 + 2 = 0$ から $\alpha^2(\alpha + 2) = -2$

α, α^2 は整数で、 $\alpha^2 \geq 0$ であるから $(\alpha^2, \alpha + 2) = (1, -2), (2, -1)$

ところが、これを満たす整数 α は存在しないから、矛盾。

よって、 $x^3 + 2x^2 + 2 = 0$ は有理数の解をもたない。

5

【解答】 (1) 略 (2) 略

【解説】

(1) p, q の少なくとも一方が偶数であると仮定する。

このとき、 $\frac{q}{p}$ は既約分数であるから、 p, q の一方が偶数で他方が奇数となる。

ここで、 $a\left(\frac{q}{p}\right)^2 + b \cdot \frac{q}{p} + c = 0$ であるから $aq^2 + b pq + cp^2 = 0$ ……①

a, b, c はすべて奇数であり、 p, q の一方だけが偶数で他方が奇数であるから、 $b pq$

は偶数である。

また、 aq^2 と cp^2 の一方が偶数で他方が奇数となる。

よって、 $aq^2 + b pq + cp^2$ は奇数となる。

これは①の右辺が0であることに矛盾する。

したがって、 p と q はともに奇数である。

(2) この方程式が有理数の解をもつと仮定すると、その解は $\frac{q'}{p'}$ (p', q' は互いに素である整数、 $p' \neq 0$) と表される。

(1) から、 p', q' はともに奇数である。

このとき、(1) と同様に $aq'^2 + b p'q' + cp'^2 = 0$ ……②

ここで、 a, b, c は奇数であるから、 $aq'^2, b p'q', cp'^2$ はすべて奇数となる。

よって、②の左辺は奇数となり、右辺が0であることに矛盾する。

したがって、この2次方程式は有理数の解をもたない。

6

【解答】 $a + b, a - b, c$ が偶数

【解説】

[1] 条件(A)で $x = 0, x = 1, x = -1$ とすると、

$$f(0) = c, f(1) = a + b + c, f(-1) = a - b + c$$

は偶数である。

ゆえに、 l, m, n を整数として

$$c = 2l, a + b + c = 2m, a - b + c = 2n$$

と表される。これを解いて

$$a = m + n - 2l, b = m - n, c = 2l \quad \dots\dots ①$$

[2] 逆に、①であるとき

$$f(x) = (m + n - 2l)x^2 + (m - n)x + 2l = m(x^2 + x) + n(x^2 - x) + 2l(1 - x^2) \\ = mx(x + 1) + nx(x - 1) + 2l(1 - x^2)$$

x が整数のとき、連続2整数の積 $x(x + 1), x(x - 1)$ は偶数であり、 $2l(1 - x^2)$ も偶数であるから、 $f(x)$ の値は偶数になる。

したがって、求める必要十分条件は①が成り立つことである。

①は、 $c = 2l, a + b = 2(m - l), a - b = 2(n - l)$ と同値であるから、求める必要十分条件は $a + b, a - b, c$ が偶数

7

【解答】 (命題 p) 正しくない、理由略 (命題 q) 正しい、証明略

【解説】

(命題 p) 正しくない。

(理由) ある n に対して、 \sqrt{n} と $\sqrt{n + 1}$ がともに有理数であると仮定すると、

$$\sqrt{n} = \frac{a}{b} \quad (a \text{ と } b \text{ は互いに素な自然数}) \quad \text{と表される。}$$

$$\text{両辺を2乗すると} \quad n = \frac{a^2}{b^2}$$

a と b は互いに素であるから、 a^2 と b^2 も互いに素である。

よって、 n が自然数となるのは、 $b^2 = 1$ のときであるから

$$n = a^2 \quad \dots\dots ①$$

同様に $n + 1 = c^2$ ……② (c は自然数、 $c > a \geq 1$) とおける。

$$\text{②} - \text{①} \text{ から} \quad 1 = c^2 - a^2 \quad \text{変形すると} \quad (c + a)(c - a) = 1 \quad \dots\dots ③$$

$$c > a \geq 1 \text{ より} \quad c + a \geq 3, c - a \geq 1$$

これと③を同時に満たす自然数 a, c は存在しないから、矛盾する。

したがって、 \sqrt{n} と $\sqrt{n + 1}$ がともに有理数になることはない。

【別解】 (一般に、自然数 N に対して、 \sqrt{N} が有理数のとき、 \sqrt{N} は自然数となることを利用する。)

n が自然数となるのは、 $b^2 = 1$ すなわち $b = 1$ のときであるから $\sqrt{n} = a$

$$\text{ここで} \quad \sqrt{n + 1} - \sqrt{n} = \frac{1}{\sqrt{n + 1} + \sqrt{n}}$$

\sqrt{n} が有理数のとき、 \sqrt{n} は自然数であるから $\sqrt{n + 1} + \sqrt{n} > 1$

よって $0 < \sqrt{n + 1} - \sqrt{n} < 1$

2数 $\sqrt{n}, \sqrt{n + 1}$ の差の絶対値が1より小さいから、 \sqrt{n} が自然数のとき、 $\sqrt{n + 1}$ は自然数ではない。すなわち、 $\sqrt{n + 1}$ は有理数ではない。

同様に、 $\sqrt{n + 1}$ が自然数のときは、 \sqrt{n} は有理数ではない。

したがって、 \sqrt{n} と $\sqrt{n + 1}$ がともに有理数になることはない。

(命題 q) 正しい。

(証明) ある自然数 n に対して、 $\sqrt{n + 1} - \sqrt{n}$ が有理数であると仮定すると、

$$\sqrt{n + 1} - \sqrt{n} = r \quad \dots\dots ④ \quad (r \text{ は正の有理数}) \quad \text{と表される。}$$

④の両辺に $\sqrt{n + 1} + \sqrt{n}$ を掛けると $1 = r(\sqrt{n + 1} + \sqrt{n})$

$$r \neq 0 \text{ であるから} \quad \sqrt{n + 1} + \sqrt{n} = \frac{1}{r} \quad \dots\dots ⑤$$

$$\text{④, ⑤ から} \quad \sqrt{n} = \frac{1}{2} \left(\frac{1}{r} - r \right), \sqrt{n + 1} = \frac{1}{2} \left(r + \frac{1}{r} \right)$$

よって、 $\sqrt{n}, \sqrt{n + 1}$ がともに有理数となり、命題 p が正しくないことに矛盾する。したがって、すべての n に対して、 $\sqrt{n + 1} - \sqrt{n}$ は無理数である。